

植物の写真をうまく撮る際の‘役に立つかわらない’覚書 其の四

写真の構図 園芸を行う人にとって、自分が育てた花草木等を美しく写真で残せることは、別の意味で園芸に楽しさを添える。そのため、花草木等をより魅せる写真として撮る術を学ぶことは、花草木等を扱う園芸への新たなモチベーションともなりうる。

植物の写真をうまく撮る際のカメラの技術的な側面については、第48～51号で述べた。ここでは撮る際のカメラマン側の技術的な視点として、写真の構図によって対象物への印象がどのように変わるかについて考えてみたい。

写真の構図についてはたくさんあるが¹⁾、特に覚えておくとよい構図は、①日の丸構図、②三分割構図、③黄金比構図の3つである（と思う）。

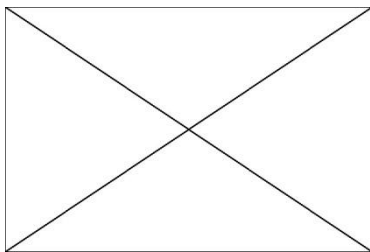


図1 日の丸構図



図2 日の丸構図による写真

日の丸構図とは、図1にあるようにFrameの対角線の真ん中に対象物がくる撮り方である。

Frameとは第48号に示した画像センサーの大きさに相当するが、図1は”APS-C”のサイズ

のFrameである。この日の丸構図をもとに撮影した花が図2になる。ちょうど花の中心が真ん中となる。三分割構図とは、Frameを縦横に3分割に等分し、交点となる位置に対象物を置いた構図である（図3）。黄金比構図とは、黄金比（ $1:1.618\dots$ ）にそってFrameを分割し、その交点に対象物を置いた構図である（図4）。この黄金比は美しさを示す特別な比であり、庭園の設計にも利用される（第26号）。さらに黄金比には、内部の正方形かららせんを引くことができる。これを黄金らせんといい、図5のようになる。この黄金らせんを念頭に撮った花の写真が図6である。

これが美しい写真かどうかは別として、少なくとも花の雰囲気はいい感じに撮れた（かもしれないと思っていたが、図6と同じ花の日の丸と黄金らせんの構図では日の丸がよいとの意見もあった（´・ω・`）つ）。ただし、日本人は黄金比よりも白银比（ $1:1.419\dots$ ）を好むとの見解もあるため²⁾、今後はこの比にも注目したい。

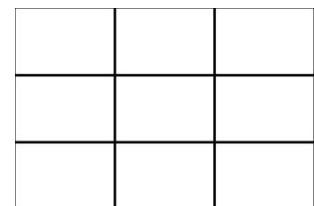


図3 三分割構図

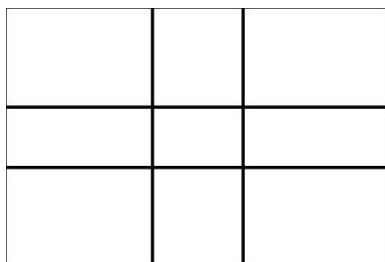


図4 黄金比構図

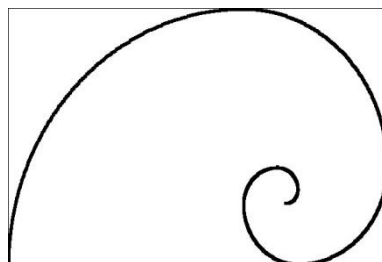


図5 黄金らせん

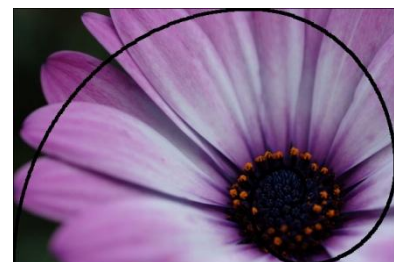


図6 黄金らせん的な写真

其の五（懲りずにまだ続く）では絞りと被写界深度の関係について、（´・ω・`）したい。

1) <http://liginc.co.jp/web/camera/45014>（閲覧：2015.3.10）

2) 牟田淳：『デザインのための数学』、オーム社、2010。

植
い
き
新
聞



植物いききサークル

第52号

発行者：犬丸、川端